

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成 31 年度・令和元年度実施事業)

白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和2年9月3日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

I 事務の点検・評価について

1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2. 点検評価の対象

平成31年度・令和元年度に教育委員会が定める「白石市教育方針」に掲げた事務事業を対象としました。

3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、外部の学識経験者より意見をいただきました。

4. 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが行った点検・評価の結果について、学識経験者2人から意見をいただきました。

学識経験者：小関 俊昭 氏 学識経験者：鈴木 るみ 氏

5. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、全校の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成31年度白石市教育方針等について

白石市教育方針

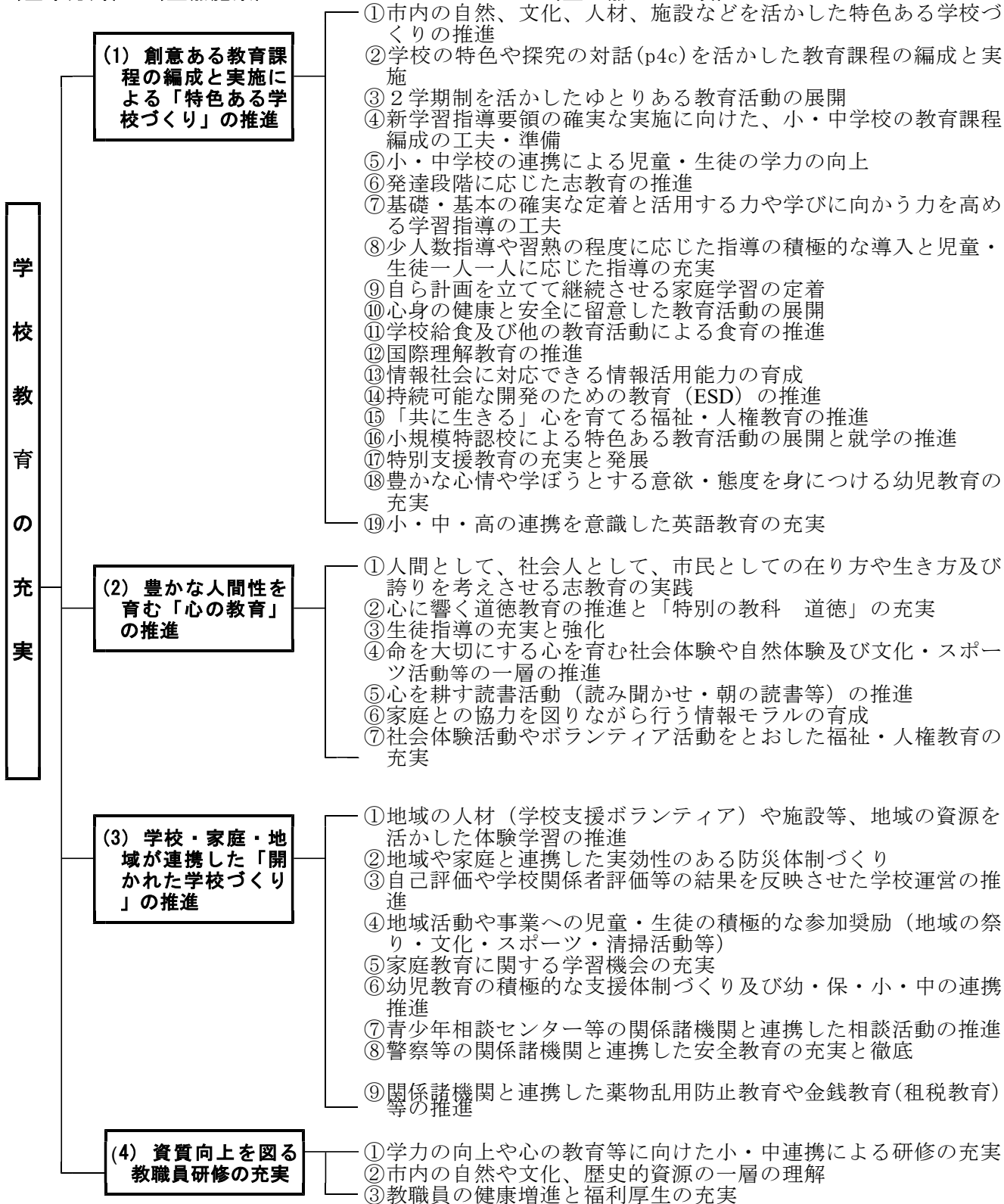
教育基本法の精神に基づき、生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を持つ幼児・児童・生徒を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」の実現を期する。

1 学校教育の充実

魅力ある学校づくりと教職員の資質・力量の向上

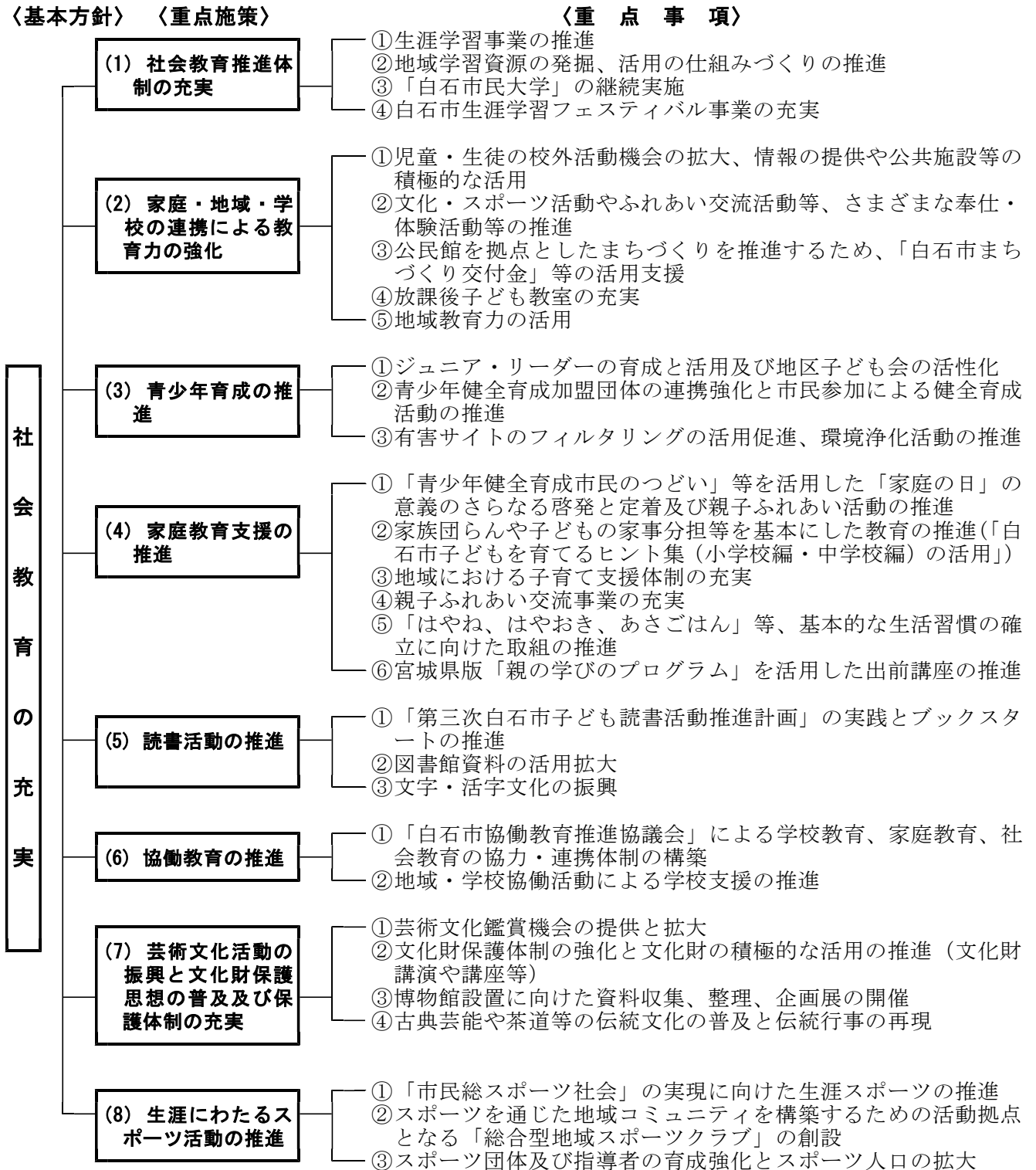
〈基本方針〉 〈重点施策〉

〈重点事項〉



2 社会教育の充実

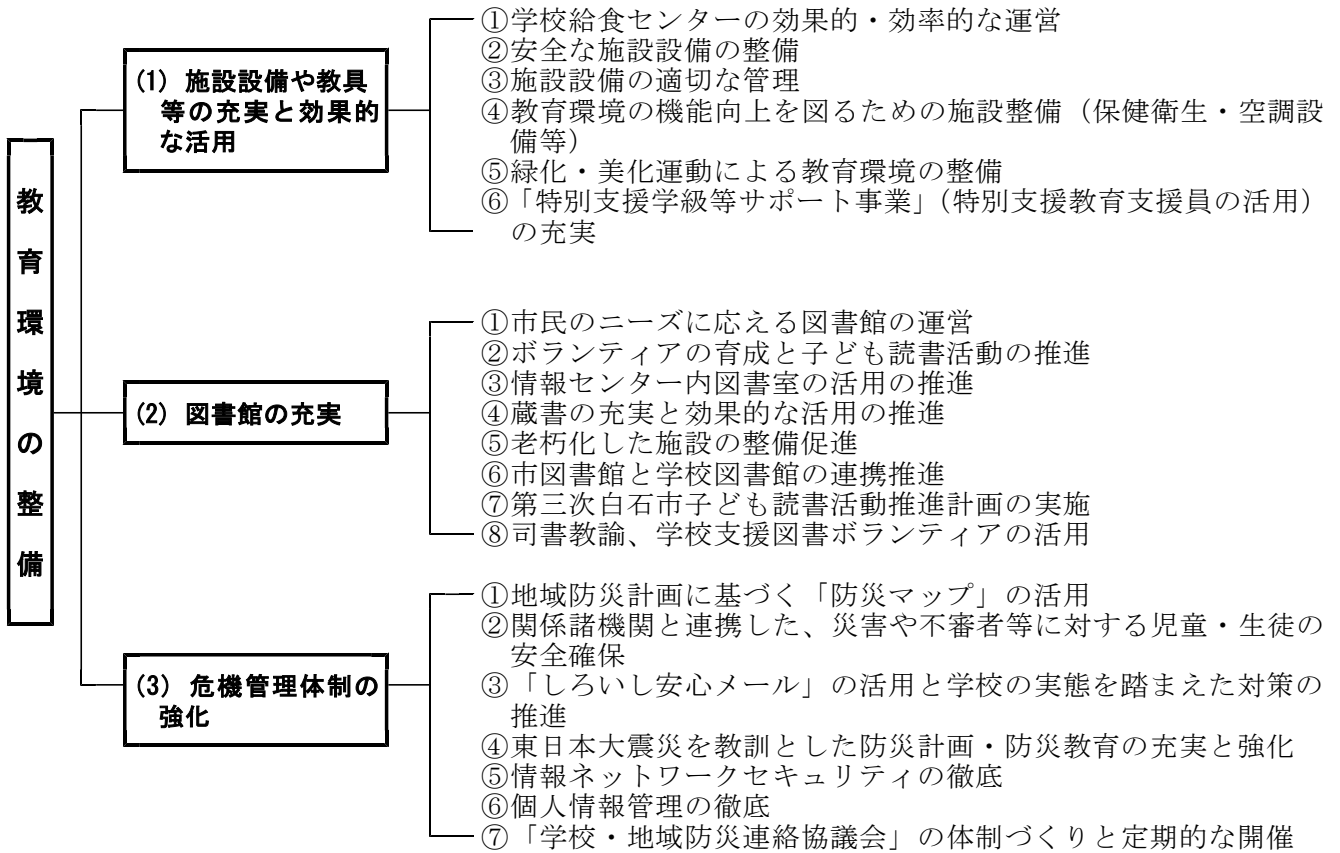
心豊かで生きがいのある生活の創造と連帯意識に満ちた活力ある地域づくり



3 教育環境の整備
ゆとりとうるおいのある教育環境づくり

〈基本方針〉 〈重点施策〉

〈重点事項〉



基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	施設設備や教具等の充実と効果的な活用 3-(1)-②③④		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設の維持修繕、維持点検により教育環境の充実を図る。		
1. 平成31年度予算額	7,260千円	2. 平成30年度決算額	11,489千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	小・中学校及び幼稚園の定期的な維持修繕、保守点検管理等を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。限られた財源であるので、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、対応している。)		
4. 事業の実績	施設修繕要望件数33件のうち、当初予算(修繕費)にて10件の修繕を行った。その他にも必要性・緊急性などを勘案して、補正予算でも修繕を行ったケースもある。また、5月末の東中落雷事故や10月の台風19号などで被害が出た学校の修繕については、迅速に対応をした。		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 必要性・緊急性を勘案しての平成31年度当初予算、緊急性によりやむを得ず要求した補正予算については、スピーディーに発注することができた。</p> <p>【課題】 施設の老朽化のための屋根からの雨漏れ、水道管などからの漏水などが発生した場合、すぐに対応はしているが、予防的な修繕にまで手が回らない。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中でも、子どもたちの安全面を第一に今後も対応願いたい。 ・各学校の設備の老朽化に関して、耐用年数等の情報をもとに入れ替え等の計画を立てられることを希望する。 ・二次的な被害の恐れのある箇所の修繕を今後もスピーディーに行ってほしい。 		

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課学務係
事業名	就学援助事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	経済的理由によって、義務教育である小学校、中学校に就学することが困難な児童・生徒の保護者に支援をすることで、義務教育の機会を確保する。		
1. 平成31年度予算額	30,051千円	2. 平成30年度決算額	23,248千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	<p>生活保護受給世帯の児童生徒(要保護)及び生活保護に準ずる程度に困窮している世帯の児童生徒(準要保護)に対し、就学に必要な以下の項目へ補助を行っている。</p> <p>(1)学用品費、(2)通学用費、(3)校外活動費(泊なし)、(4)校外活動費(泊あり)、(5)修学旅行費、(6)学校給食費、(7)新入学児童生徒学用品費、(8)医療費</p> <p>要保護世帯に対しては、生活保護で支払われない「(5)修学旅行費」のみ支給している。準要保護世帯は全ての項目が対象であるが、新入学児童生徒学用品費や泊あり校外活動費、修学旅行費といった特定の学年にのみ支給されるものもある。</p>		
4. 事業の実績	<p>支給対象者は要保護が小学生6名(7名、△1名)、中学生2名(2名、同数)で、準要保護は小学生182名(155名、+27名)、中学生102名(90名、+12名)である。</p> <p>要保護、準要保護児童生徒が市内児童生徒に占める割合は、小学生12.11%(10.41%、+1.7%)、中学生12.31%(11.06%、+1.25%)となっている。</p> <p>※令和元年度台風19号により被災した世帯に対して途中認定者を含む</p> <p>※括弧内はH30実績値、H30とR1の比較を表す</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 雇用形態の不安定さや、病気や離婚等の理由で経済的に困窮している家庭は少なくない。そのような中でも児童生徒には引け目なく義務教育に取り組んでもらいたい。そのためのセーフティネットであり、その果たしている役割は重要であると考え。また、令和元年度台風19号により被災した世帯に対しても援助を行った。</p> <p>【課題】 児童生徒の総数が減少している割に支給対象者が減らない。核家族化や離婚による生活困窮の拡大が背景にあると考えられる。また、申請制のため、制度を知らないあるいは制度利用に引け目を感じる等の理由で真に必要な家庭に支援が届いていない可能性がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・今後新型コロナの影響も考えられる。必要な世帯への援助をお願いしたい。また、昨今の気象災害で被害に遭った世帯へのフォローもお願いしたい。</p> <p>・真に必要な世帯への援助をお願いしたい。不正受給の防止を図ってもらいたい。また、本項の事業内容と位置付けている重点施策の関連が今一つ理解できない。(⇒重点施策には物事をプラスにする事象を挙げているが、マイナスをゼロにしていく、あるいは行って当たり前の事業も存在するので、紐づけが難しい面がある。あえて言えば、就学援助を通じて経済的な負担を軽減することで児童生徒が勉学に勤しみ、自分の夢を叶えることで好循環を図っていくという考えである。)</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 平成31年度予算額	22,846千円	2. 平成30年度決算額	24,454千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	令和元年度はALT4名を配置(JETプログラム3名、市直接雇用1名。JET3名中2名が8月に交代した)。市内全小・中学校及び保育園・幼稚園(計11園)にALTを派遣し、授業での活用や交流活動を行った。		
4. 事業の実績	ALT学校配置日数(H30) ウィリアム・リー210日 リチャード・チョー210日 ケラ・フィミアン207日 大野フローレンス214日 ※平成30年度は学校をブロック化せず変則的に配置。小学校週1日(白一小2日、白二小3日)、中学校週1~2日、保育園・幼稚園年3日配置。		
	ALT学校配置日数(R1)※3月臨時休業あり ウィリアム・リー(後任カレン・ヴィーヤ)186日 リチャード・チョー199日 ケラ・フィミアン(後任ゲイラパール・マテオ)188日 大野フローレンス200.5日 配置体制①白石中・白二小②福岡中・大鷹沢小・福岡小・深谷小③小原小中・越河小・大平小・白川小④東中・白一小。保育園・幼稚園への配置日数計30日。		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】小学校3年生以上の授業にALTを配置することで、英語の音やリズムに慣れ親しみ、外国語を通して異文化への理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。</p> <p>【課題】授業時数に占めるALT配置時数の割合が100%となる学校がある一方で、21~40%となる学校もある(令和元年度公立小・中学校における英語教育実施状況調査。小学校は5・6年生における割合)。また、幼児期から英語の音や異文化に慣れ親しむことが重要であると捉え、幼稚園や小学校低学年においてもALTを活用できるよう、効果的な活用・配置方法等を検討する必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・学校間の活用率の差を解消していただきたい。幼児教育時の展開も重要であると考えている。</p> <p>・ネイティブの発音に触れるのは重要である。ALTの配置時数の平均化を図っていただきたい。</p>		

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進、学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 平成31年度予算額	16,398千円	2. 平成30年度決算額	10,442千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	白石市子ども心のケアハウス、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの活用。白石市生徒指導問題対策会議、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	平成30年度 ケアハウス：支援児童生徒実人数124人(学校復帰児童生徒実数3人)、保護者支援総数139人 相談センター：相談件数31件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数649件 仙南けやき教室：通所者11名、相談件数75件 スクールソーシャルワーカー：支援児童生徒数35人、訪問活動回数279回 スクールカウンセラー：相談件数小学校児童122件、教員36件、保護者424件 中学校生徒544件、教員242件、保護者134件		
	令和元年度 ケアハウス：支援児童生徒実人数129人(学校復帰児童生徒実数8人)、保護者支援総数38人 相談センター：相談件数41件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数114件 仙南けやき教室：通所者11名、相談件数27件 スクールソーシャルワーカー：支援児童生徒数56人、訪問活動回数252回 スクールカウンセラー：相談件数小学校児童135件、教員28件、保護者353件 中学校生徒305件、教員16件、保護者147件		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】各機関において、問題を抱える児童生徒・家庭への関わり、相談件数は増加傾向にあり、問題行動の未然防止の観点からも積極的な対応を行っている表れであると考えられる。「いじめ防止大会」においても、中学校でのPSC活動を中心とした、いじめを未然に防止する自発的な取り組み等を地域に情報発信することができた。</p> <p>【課題】子どもの心のケアハウス運営支援事業、スクールソーシャルワーカー配置事業に関しては令和2年度で県の補助が終了となるが、人材の確保など持続可能な支援体制を構築していくことが課題である。また、不登校児童生徒への支援が学校復帰を目的とするものではなく、児童生徒の社会的自立を目指すものへとシフトしている中で、個々が抱える様々な問題に対応できるよう、支援体制のさらなる充実が求められる。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・復帰者の増加は素晴らしい成果だと思う。ケアハウスやスクールソーシャルワーカーへの県補助がなくなるとのことだが、本事業の成果や重要性をかんがみ何とかしていただきたい。</p> <p>・8名の復帰はすごい。ただ、復帰してもまた戻って来たりも多い。自分だけでなく家庭の問題も大きいことがある。ケアハウスは15歳までが対象で、それ以降のフォローがない。福祉部門と連携して自立していくようにできないか。また、人によっては障害が原因ということもあり、場合によっては特別支援教育へつなぐというのも重要ではないか。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 平成31年度予算額	7,788千円	2. 平成30年度決算額	5,837千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	<p>家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。</p> <p>○家庭教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催・県主催「学ぶ土台づくり親の学び研修会」の共催実施・親子リトミック&家庭教育学級 <p>○学校教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 <p>○地域活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 <p>○放課後子ども教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越河小学校・深谷小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの一体型及び連携型で運営 		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計13校(15校)、市内幼稚園2園(市内幼稚園2園) ・年間活動日数：第一小465日(265日)、第二小240日(258日)、越河小46日(86日)、大平小30日(25日)、大鷹沢小218日(111日)、白川小21日(18日)、深谷小43日(28日)、福岡小47日(40日)、小原小35日(21日)、白石中1日(2日)、小原中17日(18日)、東中7日(17日)、第一幼稚園1日(5日)、第二幼稚園2日(9日) ・家庭教育学習講座の実施数：6校2園(県共催実施も含む)(7校5園)(7校5園) <p>※単位：延べ日数、()の数値は昨年度</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。過去8年間の実績を踏まえ、家庭教育支援では実施学校が増加傾向にあり、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている、学校教育支援ではまだまだボランティアの人手は必要ではあるが、校外の活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動して頂いており、放課後子ども教室は継続して実施できた。</p> <p>【課題】全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後、地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育にとってボランティアの協力はとても有難いことであるので、派遣依頼が増えているのは子供たちにとっても意味のあることと考える。 ・放課後子ども教室も軌道にのってきたのでさらに充実を図ってほしい。 ・地域コミュニティの衰退が懸念されている中で、白石第一小、白石第二小、大鷹沢小のボランティアの活動日数の多さに目を見張るものがある。 ・まちづくり協議会と協力した事業に期待したい。 		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡のまち整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 平成31年度予算額	6,891千円	2. 平成30年度決算額	10,063千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	<p>史跡のまち整備事業では、市内に設置してある文化財説明板・標柱のうち、風雨にさらされ文字の判読が難しくなったものを塗り替え、更新した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において発掘調査を実施し、遺跡の有無の確認や記録保存目的の発掘調査・測量等を実施した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(平成30年度)文化財説明板の塗り替え4件、試掘確認調査・保存目的調査23件 (令和元年度)文化財説明板・標柱の塗り替え3件、標柱の新設1件、 試掘確認調査・保存目的調査21件</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】史跡のまち整備事業においては、説明板更新・標柱新設により来訪者が文化財に対する理解を深めることができただけでなく、地域の中にある文化財の存在と価値を周知することができた。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、調査を実施したことにより遺跡の現状が把握され、遺跡保護に向けて開発事業者と円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた上、個人や零細企業などの事業主に対して発掘調査の経済的負担を最小限に抑えることができた。</p> <p>【課題】市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化しているものもあるため、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業は、国の補助金が削減傾向にあり、十分な事業費の確保が困難になっている。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・文化財の数から考えると予算は厳しいものがあると思うが、計画的に点検し修繕を図ってほしい。</p> <p>・更新した文化財説明板のことは、「広報しろいし」に白石の文化財シリーズとして載せてはどうかと思う。</p> <p>・遺跡の開発や維持にも費用が必要かと思うが、予算の有効な活用を今後も期待する。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	生涯にわたるスポーツ活動の推進 2-(8)-①		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 平成31年度予算額	5,740千円	2. 平成30年度決算額	4,411千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民綱引き大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市体育協会事業)及び学校施設開放業務</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (H30実績)計18回開催(うち小学校12回、地区公民館等6回)、参加者(延べ)837名 (R1実績)計21回開催(うち小学校12回、地区公民館等9回)、参加者(延べ)1,238名</p> <p>○各種スポーツ大会の開催 市民グラウンドゴルフ大会、白石市ふるさとスポーツ祭、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民・小学生シャフルボード大会、市民綱引き大会、(市民体育大会は台風19号の影響により中止)</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらう良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・市民体育大会が中止になったが、予定していた大会が安全に行われ市民のスポーツ活動がしっかり遂行されたことはよかった。</p> <p>・ニュースポーツ移動教室への参加者が増加していることも望ましいことと感じる。</p> <p>・ニュースポーツ移動教室に継続して取り組んできて、体を動かす楽しさを広めることができていると感じている。さらなる継続を期待している。</p> <p>・令和2年度、新型コロナウイルスの影響で中止となる事業も多いと思うが、収束後にまたスポーツに親しめるように環境維持には努力してほしい。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-②		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 平成31年度予算額	千円	2. 平成30年度決算額	千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ●利用回数: (H30)2,201回 (R1)2,027回 ●利用人数: (H30)51,748人(うち 主催事業27,323人、社会教育関係団体13,144人、その他11,281人) (R1) 49,068人(うち 主催事業25,908人、社会教育関係団体12,463人、その他10,697人) 		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】指標として、利用回数、利用人数を対比し、評価検証を行う。 利用回数は、対前年度比△174回(△7.9%)と減少、利用人数も対前年度比△2,680人(△5.2%)となった。減少となった大きな要因は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公民館まつりの中止や3月から休館措置をとったことがあげられる。</p> <p>【課題】生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、自主的な学びへの支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努める。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染の心配から、様々な事業が自粛せざるを得なくなっている。利用率の減少が予想されるが、市民の学びの場としての環境整備を継続してほしい。 ・市民の学習活動の大切な場であるので、対応も含めて利用しやすい環境を整えてほしい。 		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課地域支援係
事業名	まちづくり交付金事業		
重点施策 (白石市の教育より)	家庭・地域・学校の連携による教育力の強化 2-(2)-③		
事業の目的・目標	地域の特性を活かした市民主役のまちづくりを具体化するための事業を行う団体を支援する。		
1. 平成31年度予算額	5,183千円	2. 平成30年度決算額	5,294千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	<p>令和元年度は花の植栽や樹木の剪定などの環境美化、祭りの開催、史跡の伝承、持続可能な地域づくりへの取り組みなど、地域の資源や特色を生かした多様な事業展開がされた。</p> <p>各地区の事業件数内訳は、白石地区4事業(1,251,000円)、越河地区1事業(237,600円)、齋川地区2事業(537,000円)、大平地区2事業(599,000円)、大鷹沢地区1事業(576,000円)、白川地区1事業(486,560円)、福岡地区3事業(745,000円)、深谷地区2事業(559,000円)、小原地区2事業(536,000円)、合計18事業(5,527,160円)であった。</p> <p>また、齋川まちづくり協議会が齋川公民館を拠点に実施している、『きらり齋川笑アップ塾(地域課題を住民で話し合い、課題解決に向けた継続的な学びの講座)』は令和元年度文部科学省優良公民館表彰最優秀館(日本一の公民館)を受賞するきっかけとなった事業でもある。</p>		
4. 事業の実績	<p>全事業における地域住民の参加者実績が9,499人、見込が9,631人であり、見込に対し98.9%の参加率であった。(平成30年度の参加者実績:8,749人)</p> <p>※H30年度は見込数の報告が義務化されていなかった。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】平成25年度に制度が創設され7年が経過し、多くの方に認知される制度になった。これまでに、110事業が採択となり、地域の伝統文化や地域資源を活かした地域活性化や地域コミュニティの活性化が図られる事業が展開された。このことにより、住民の学びを深める場の提供、地域資源の再確認の機会の創出、地域住民の交流促進を図ることができた。</p> <p>【課題】交付金の活用団体が固定化しており、新規団体の申請が少ない状況である。また、地区ごとに予算の上限額を設けているが、執行状況が大きく異なる。さらに、現制度の交付対象事業は、住民が直接関わることのない委託事業も対象になっており、各団体の実施事業の内容に大きな差が出ている。</p> <p>これらも踏まえうえで、第六次総合計画策定に合わせ、より住民自治を育める制度の在り方を検討し制度の見直しが求められる。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>・それぞれの地区が交付金を有効に活用していると思った。</p> <p>・地域のつながりは、児童、生徒の教育にも多大な影響を与えるので、今後も齋川地区のような取り組みを目指し頑張してほしい。</p> <p>・文部科学省優良公民館表彰最優秀館(日本一の公民館)を受賞するきっかけとなった齋川まちづくり協議会の事業を支援できたことは素晴らしいことだったと思う。</p>		

基本事業(基本方針)	教育環境の整備	担当課	学校給食センター
事業名	学校給食運営事業		
重点施策 (白石市の教育より)	施設設備教具等の充実と効果的な運用(3-(1)-①学校給食センターの円滑な運用)		
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。		
1. 平成31年度予算額	258,178千円	2. 平成30年度決算額	264,381千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。 学校と給食センターが連携して「食に関する指導」を実施する。		
4. 事業の実績	児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け自らの健康管理ができるように支援することを目的として、学校と給食センターが連携して「食に関する指導」を実施した。 実施方法:各学校概ね年間2回程度を基本として、学級担任と栄養教諭・栄養職員によるT・Tの形で授業に参画し、食に関する指導を実施した。(日数:21日、時間:31校時)		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 各学校での指導計画のもと、計画表に沿って実施することができた。指導時期は各学校の希望を基本として重複の場合は調整を行った。指導テーマは各学年に応じた標準的なものを提示して学校が選択可能とし、学校独自のテーマの提案も可能とした。</p> <p>【課題】 小学校:低学年では、給食そのものへの理解や、牛乳・野菜の大切さを挙げる類似性があるが、中・高学年のテーマについて各学校に特色があった。 中学校:「受験期の食生活を見直そう」がすべての中学校が選択し、一定程度統一感がある一方、さらに新入生に朝ごはんの大切さを知ることがテーマとする取組も実施した中学校もあった。 今後は、事前事後の打ち合わせはもちろんのこと、給食のことも議論される学校保健委員会にもさらに参画して各学校との連携をより深めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な給食が提供されており、保護者も安心していると思う。 ・コロナ禍の中での給食では、子どもたちも制限があり楽しい給食とはなっていないかもしれないが、今後も安全を考えた給食の提供を願いたい。 ・食中毒等の事故無く、安全で安心な給食が提供されていたセンターの方々の働きに感謝したい。 ・食に関する指導を学校とセンターと連携(担任と栄養教諭・栄養職員のTT)して行うことで、児童生徒の食に対する意識が高まり、知識の定着が図られていると感じる。継続していくことで効果が高まると思うので継続してほしい。 		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-②)・図書館の充実(3-(2)-①,②,③,④)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まですべての市民の生涯学習の場として、資料や情報を収集、提供し、「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 平成31年度予算額	26,053千円	2. 平成30年度決算額	25,501千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	(1) 各分野を網羅した資料を収集、提供し、利用者の視点に立った書架の整備を進めたことで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) 移動図書館「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (3) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働により図書館運営の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出冊数は、一般書が52,739冊(+647冊)、児童書が39,383冊(+606冊)、視聴覚資料及び雑誌が6,580冊(-873冊)、合計98,702冊(+380冊)であり、貸出人数は22,327人(-702人)であった。 (2) 高校受験を控えた中学3年生の学習支援として、閲覧室に学習用参考図書コーナーを設置し対象者全員にチラシ配布を行い、学習のための資料と場所の提供を行った。 (3) 市内16箇所のサービスポイントにおいて、10,857冊(-1,326冊)の図書を貸し出した。また、20箇所の配本所へ6,233冊(-6,267冊)の図書を配本した。 (4) 書架整理6人(-3人)、読み聞かせ18人(-3人)、図書館支援5人(-1人)のボランティアが登録し、延べ202回(-6回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 年間を通し、各分野から3,118冊(+33冊)の図書等を受け入れ、所蔵資料の充実を図った。また、ホームページ・広報誌の内容を見直し、提供しているサービス内容の周知を積極的に行い、利用促進を図った。学習の理解を深めるための資料を提供し、児童・生徒の学校・家庭以外の学習の場として、学習活動の支援を行った。貸出冊数は増加したものの、利用者数の減少傾向に対応するため、図書館利用を促す広報活動を実施したものの、利用者数を増加させることができなかった。 【課題】 人口減、電子書籍の普及等により、利用者数等が減少している。現在のホームページ・図書館だよりの内容を再考し、蔵書資料の紹介や図書館の魅力を発信する方法を模索する必要がある。また、子どもの読書活動、生涯学習活動を促進するためにも、学校、関係各課及びボランティアとの連携をより強化し、資料の提供のみでなく利用しやすい図書館づくりを行う必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	・ホームページの更新が適時なされており、その内容も市民のニーズに合わせたものだった。今後も利用者の声を聞きながら、内容を考え、利用者の満足度を上げて欲しい。 ・生涯学習の場としての図書館の役割は大きいと思われるので、貸出人数だけでなく、利用人数(閲覧、学習等)にも焦点をあて、利用状況の指標にしても良いのではないかと。 ・「こまくさ号」を楽しみにしている人々も多いと思う。本に触れる機会を増やすためにも継続して欲しい事業の1つである。		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-①)・図書館の充実(3-(2)-②,⑦)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに市民の文化意識の高揚を図る。		
1. 平成31年度予算額	— 千円	2. 平成30年度決算額	— 千円
3. 平成31年度・令和元年度の事業内容	<p>(1) 6か月児ブックスタート 6か月児育児相談日に、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせを行い、絵本に触れるきっかけづくりを支援した。</p> <p>(2) おはなしひろば アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居等の読み聞かせを行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 保育園、幼稚園及び学校等において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせを行い、子どもの読書活動を推進した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) 6か月児ブックスタート 開催回数: 11回 参加人数: 大人 222人 子ども 142人 ボランティア 20人 (-1回) (-51人) (-55人) (-3人)</p> <p>(2) おはなしひろば 開催回数: 22回 参加人数: 大人 95人 子ども 227人 ボランティア 49人 (-1回) (±0人) (+1人) (-2人)</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 開催回数: 66回 参加人数: 大人 410人 子ども 1,843人 ボランティア 130人 (+11回) (+241人) (+303人) (+20人)</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 少子化の影響のため子どもの数が減少しているものの、読み聞かせボランティアの積極的な活動と、保育園・幼稚園・小学校など出前読み聞かせ先の読書推進に対する理解と協力連携を得て、幼児・児童が普段の生活の中で図書と触れる環境をつくるため、読書に触れる機会を数多く提供し、子ども読書活動を推進することができた。</p> <p>【課題】 おはなしひろばについて、開催日が他の季節行事と重複しないような工夫と、興味・関心を引くような事業内容を検討しなければならない。また、読み聞かせを担うボランティアのネットワークを広げる機会を設け、活動の継続とボランティアの育成につなげる取組を検討する必要がある。さらに、学校との連携を強化し、各学校にあった学校図書室の機能充実を図らなければならない。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>・読み聞かせボランティアの活動が素晴らしいと思った。学校との関わりも見られ、子どもの読書活動に良い刺激を与えているので、今後も活動の幅を広げて欲しい。</p> <p>・ボランティアの方々の協力をいただきながら、継続して欲しい事業である。</p>		